

# スペイン語を体得し、 イスマノアメリカ 4 億人市場に挑む



工学部 2 年  
山田 修平  
メキシコ  
2017 年 2 月 12 日～  
2017 年 3 月 24 日

## 渡航概要と内容

- 2/12 成田空港からメキシコシティ、メキシコシティからグアダハラまでの空路でグアダハラに到着
- 2/13-3/10 1 か月間、ハリスコ州グアダハラ市にてメキシコ人家庭の家にてホームステイ。グアダハラ大学 Colegio de Espanol y Cultura Mexicana 局主催のスペイン語授業 (Curso Intensivo : 週 5 日、1 日 5 時間) に通学。また 2/18 にハリスコ州テキーラ、2/25,26 にグアナファト州グアナファトへ文化を中心に観光。
- 3/10-3/14 オアハカ州オアハカ市に滞在。現地の歴史遺産と生活様式を中心に観光。
- 3/15-3/22 メキシコシティに滞在。現地の工業地帯と生活様式を中心に観光。
- 3/23-3/24 メキシコシティから成田空港まで空路で帰国。そこから新幹線で帰宅。

## 渡航を通じて感じたこと

志望動機書の通りに、今渡航の目的は二つありました。一つ目はスペイン語を流暢に話せるようになること。二つ目はメキシコ及びイスマノアメリカで生活するために必要なスキルと教養を実践的に得ることでした。この二つの目標を私は今回の渡航で十分に果たせたと思います。以下にそれぞれの点について 40 日間に及ぶメキシコでの滞在中に私が得たものについてご報告します。

まず今渡航の前半一か月間、私はグアダハラ大学が主催するスペイン語クラスに通っていました。この一か月間で私のスペイン語力は劇的に向上しました。渡航前の私は京都大学などで計 4 年間スペイン語を学んでおり、理論的には一通りスペイン語文法を終えていました。しかし理論的には高等教育機関レベルの英語を扱える平均的な日本人大学生が観光客に道順を教えるのにも苦心するのと同じように、実践的に使えるスペイン語力は限

られていました。毎日5時間、計100時間のスペイン語のクラスで会話を中心に文法や読解をみっちり学ぶ中で、私の語学力は空白やジェスチャーを交えた上でなんとか生活に必要な会話をこなせるレベルから、少し頑張れば日墨の文化比較から墨国の与党政治の是非について議論できるレベルにまで成長しました。具体的に言うと、会話レベルの速度で活用できる時制が現在形に限られていたのが、二種類の過去、未来、それぞれの完了形までを会話レベルの速さで活用できるようになり、接続法なども決まり文句を会話にスムーズに混ぜられるようになりました。語彙も生活に身近なものに限られていたのが、スラングから高度な単語まで幅広く身に着けました。また観光地を訪れた際にはスペイン語ツアーに積極的に参加し、8割から9割の内容を理解することができました。同じくツアーに参加していたスペインやアルゼンチン人の人たちとの会話を通じてスペイン語の多様性に触れるとともにそれらに対する理解力も高められました。(スペイン語は国によってイントネーションや発音の違いに加え、文法にも違いがあります)

またメキシコに一月超も滞在する中で、単なる旅行とは異なる視点でこの国の文化や生活様式を知ることができました。例えばこの国の歴史から、スペイン人征服者が原住民に対して行った略奪・虐殺の正当化としてキリスト教が使われたこと、メキシコの改革運動でその肥大化した教会の富と土地が没収されたことを知っていたので現地のカトリックに対する風当たりは強いかと予想していました。しかし実際に生活してみるとホストファミリーも含め、敬虔なキリスト教徒の多さに驚かされました。家には十字架がどこにでもあり、教会の前を通る人はよく十字架を切りました。しかし博物館などではやはりキリスト教の伝来に対して厳しい口調で書かれたものも多くありました。征服者と被征服者の混血、“メスチソ”の国特有の、征服者の価値観に対する複雑な感情を垣間見た気がしました。またお金のやり取りは原則手渡しで、テーブルに代金を置いて去ることを避ける文化も現地で初めて学びました。アメリカに住んでいた頃は極めて普通だった行動なので気を付けなければいけませんでした。極度の資本主義社会を築いた隣国と比べ、メキシコ革命を経て社会主義的な色を持った社会の現れに思えました。他にもメキシコ、特に中央高原地域の政治観や食生活など様々なことについて深く知ることができました。そしてメキシコシティとオアハカでの追加滞在によりこの国の歴史や食文化から人種構成まで、あらゆる面における地域多様性について気づかされました。その文化や価値観は私との親和性が高く、この地に住める自信と今後必要な努力の見通しを今渡航で得られました。

## 今回の経験をどのように今後生かしていくか

今後は主にスペイン語の資料を通して、語学学校ではあまりカバーできなかった読解力を強化しようと思っています。まだ私のスペイン語力はこの国で仕事をするには足りません。しかし長期滞在するには十分なスペイン語と学術・職業用途に対応できる英語力を習得しているので、残りはメキシコの高等教育機関やインターンなどに参加し on-the-job

training で必要な語学力を得ようと思います。従って今夏、あるいは来夏に理系インターン斡旋団体の IAESTE を通じてメキシコへのインターンに応募しようと考えています。さらに長期的な展望に立つとスペイン語を習得することは直接的なスペイン語使用に関するだけでなく、新たな世界観を自分の中に確立できると考えています。英語とのバイリンガルとして、日ごろから2つの母言語を持つ、すなわち世界観を2つ持つことによる利点を実感している身としては、この新たな世界観がどのような状況においても自分を助けられることと確信しています。

## 主な奨学金の使途

- \*渡航費
- \*移動費
- \*語学学校 1 か月（ホームステイ費用込）
- \*滞在費 など



グアダハラ大学本部。この大学はメキシコにおける唯一の京都大学との提携校であり、メキシコ第二の都市最大の大学。写真手前の車道はグアダハラ市の目抜き通りですが、日曜日は通行止めにしてスケートボードやサイクリング用に開放します。



メキシコ料理は新大陸原産の食材（トマト、トウモロコシ、唐辛子、カカオ）をふんだんに使用することで有名で、古代文明から受け継ぐ料理は和食よりも先にユネスコの無形文化遺産に登録されるなど、国際的に有名です。写真はオアハカ料理で、右手前の料理は豚の皮のフライのトマト煮込み、左手前の黒いソースはカカオを使った苦辛い（がほんのり甘い）モーレ・ネグロ、左奥のゴーヤーチャンプルーみたいな色の料理はネバネバした触感で有名なサボテンの炒め物。



隣国の小売り世界最大手のWalmartなどが進出しているにも関わらず、ここでは市場で物を買う習慣が未だに根付いています。写真はグアナファトの中央市場（メルカド）右手に見える張り子は中にキャンディーが詰まっており、目隠しした子供がスイカ割りのように棒で割ることによって内部のキャンディーを取りに行く、主に誕生日会で行われる遊びに使われます。



16世紀にコンキスタドール達がアステカ帝国を滅亡へと追いやるまで、アメリカ大陸では独自の文明を旧大陸の影響を一切受けることなく築いていました。一切知識やアイデアの伝搬がなく、地理的にも全く違う環境下で発展した文明間のパラレルと違いが鮮明に記憶に残りました。写真はメキシコシティ郊外のテオティワカン遺跡で、旧大陸ではローマ帝国～中世の間に栄えました。この遺跡では繰り返し108という数字が建築に現れますが、これは360日周期の“男のカレンダー”（農耕用）と270日周期の“女のカレンダー”（祭事用、女性の妊娠期間による）の最小公倍数、54年の男と女の周期を合わせて108年がテオティワカン人としての“干支”にあたる概念だったからだそうです。